

市民の皆さんとミーティングの概要

団 体 名	はまなすネットワーク
開催日時	平成30年12月27日（木） 14:00～15:00
開催場所	市長応接室
出 席 者	はまなすネットワーク 5人 市長、市民福祉部長、健康づくり課長・参事・主査・主任 企画部長、地域情報課長・広報広聴係長
案 件	自殺予防について
概 要	Q 市で自殺対策計画を立案中だが、民間で活動している立場から以下の7項目を提言した。 1.誰も自殺に追い込まれることのない能代の実現を目指した「健康づくり市民運動」を旗印に自殺予防活動を展開する。 2.機能的で持続的な支援活動を展開するために、相談窓口を常設した「のしろ自殺総合対策推進センター」を設置し、適切なタイミングで多重支援ができるようにする。 3.対応困難な事例について関係機関が検討会を定期的実施し、情報の共有とアウトリーチを検討し効果的な対応につなげる。 4.地域の現状を把握し、効果的な取り組みを立案する為に、プロファイリングや調査研究を行う。 5.民間団体の相互連携、情報共有、スキルアップの強化でネットワークの充実を図り、地域のセーフティネットを広げるための体制づくりを強化する。 6.未来への布石として若者への教育と支援策を充実する。 7.子どもを生み育てる支援の一つとして妊娠期から産後1年までの人へのメンタルケア支援を充実する。 自殺対策は、能代市民の健康づくり対策の一部として位置づけるべき。自殺だけではなく、この地域は、癌・心臓病・脳卒中などの死亡率も高い。市民全体の健康づくり運動が必要と考え提言の1番に書かせてもらった。 提言の2番について、自殺対策の窓口がいろいろあるが分かりにくい。まとめてもらって有効な窓口をつくってもらいたい。 市民全体の健康づくり運動を推進していくには、市民を巻き込んだ運動をおこなっていく必要がある。 A 皆さんには心から感謝申し上げます。能代市自殺対策計画策定のタイミングで提言をいただき、また、自死に対し真摯に取り組んでいる皆さんからご意見をいただけるのはありがたい。 自死の一番の原因が健康だとすれば、健康を維持するにはどうしたらよいか考える必要がある。総合計画で、幸福共創を基本理念とし、こころ・からだ・ものの豊さを目指しており、健康づくりをまちづくりの核としている。 また、自死に対する考えをしっかりと持ちってもらうには、自分の命を大切にする教育が必要だと思っている。学校・家庭・社会教育の中で命の大切さを考えていけるよう取り組んでいきたい。 提言2については、どういう窓口を設けたらよいか検討していきたい。 提言3については、同じ認識だと思っている。ただし、アウトリーチについては実施

	していないので実施手法などについて勉強していきたい。 提言４については、国で実施しており市にも資料が来ているので計画に反映させていきたい。 提言５の民間団体の相互連携については、はまなすネットワークのしろのお力をお借りしながら情報を共有し、やれることをしっかりやっていきたい。 提言６の教育については先にお話しした通り。 提言７については、子育て支援課でおこなっているが足りないことがあればご意見いただきたい。 Q 少子化が進む中、将来に向けてどうするかを考える必要がある。例えば能代市の場合、都会と違って車がないと病院に行けない。病院に通院できない、迷惑はかけたくない、病院に行かない、体調が悪い、気持ちも悪い、そして周りが見えなくなり自死を選んでしまう。 A 健康診断をして要精検になっても二次検査に行かない。どうして行かないかといえば「怖い」からではないかと思っている。受診勧奨しても行かない。どうやったら行ってくれるのか悩んでいる。 Q いつも同じ結果だからという思いもあると思う。 山形県のある自治体にはポイントカードがあり、お楽しみがあると聞く。 A 本当に悪くて病院に行くのならよいが、ポイントがほしくて行くのは困る。 １年間健康保険を使わないと表彰していたが、ちょっと具合が悪くても我慢してしまうこともあった。 Q 生きがいも必要だと思う。生きがいや生きる目的があれば健康でありたいと思う。そうでなければ、歳だし健康に気をつけなくてもよいと思うのでは。 A 孤独死というのがあるが、家族の中での孤独もある。そういう人の自殺率は高い。 Q 子ども達の相談窓口が全国的に LINE やネットになっているので、将来的にはそうしていく必要がある。 A 情報機器に対する考え方が我々の世代と違うので相談窓口などについても考えていかなければいけない。 Q 先日の会議で、医師や薬剤師が心配に思った人をどこにつなげてよいか分からないと言っていた。いろいろなニーズがあるので、それぞれのニーズに合わせた窓口がたくさん必要で、それぞれの窓口がネットワークでつながっているとそれが一つの窓口になる。また、ネットワーク全体を把握している窓口が総合窓口になる。総合窓口について具体的に検討してほしい。 A 個人情報保護の意識が高まっており、情報を他に伝えるのが難しくなっている。ナイーブな問題なので配慮が必要。総合窓口について、どういうやり方がよいかを含めて検討する。 Q 総合窓口とは、常時人が居て、複数の問題を抱えている人に寄り添いながら、適切な窓口を紹介したり、担当の窓口に情報を提供したりする窓口と考えている。
--	--

	A 今でも、職員同士が連携したり、職員が一緒に同行したりしている。 いたらないところがあれば言ってほしい。 Q 各課はよくやっている。各課でやるのは大変だと思うので総合窓口をつくってほしい。 不安を抱えている人には、寄り添ってくれる人が必要。自分で動かないといけなくなれば不安が増大する。窓口の人が一緒に動いてくれるだけでありがたい。 A 職員には、そうなってほしいと思っているし、そうあるべきだと思う。いたらない点があればぜひ言ってほしい。 また、しっかりやっている職員がいることも理解してほしい。 Q 個人情報の問題もあるが、民生委員と連携できないかと考えている。 我々に情報があっても、個人の自宅に入っていけない。民生委員にも情報があると思うので、我々が民生委員に同行して寄り添えないかと考えている。 A 情報提供するには同意をとる必要があるが、悩んでいる人に相談できる場所を教えることはできる。心掛けていきたい。 Q 民生委員や自治会長などに自死問題の認識を深めてもらい、その人たちが適切な対応が取れるようになれば非常に心強い。 A 民生委員や自治会長などに、自死の問題を学ぶ機会をつくっていきたい。 Q 癌・心臓病・脳卒中などで亡くなる人が多い、健診を受けたり、食生活や生活環境を改善したりする努力をしているにもかかわらず、依然として多い。原因を分析しなおす必要がある。 食生活の改善をどれだけ意識しているかいうと心もとない。喫煙率も低下しているがまだまだだ。市民を巻き込んで自分の健康をどうやって守っていくか意識づくりを進める必要がある。 A 自分の健康は自分で守るという啓発活動や、先進事例の勉強もしながらしっかりやっていきたい。 今日の話や提言を参考にし、自殺対策計画に活かしていきたい。
--	---